

## 夢は兄弟で全国へ

「若手削蹄師の奮闘」

「よしよし。大丈夫」と牛に声をかけ背中をさするのは、茅屋集落の宮瀬亮太さん。「若いけど話がしやすい。仕事が早く人間味も良い」と評判の好青年です。

宮瀬さんは、7月中旬に開催された第28回鹿児島県削蹄競技大会において6位入賞しました。9月に沖縄県で開催される九州大会への出場が決まり、さらに腕を磨いています。

19歳で削蹄師の免許を取得し、現在は父の久志さんと畜産業を営んでいます。

1頭の蹄を切る時間は約10分。1時間で6〜7頭、年間では8千〜1万頭の蹄を切りま



↑牛をなだめながら蹄を切る宮瀬さん

す。同じく削蹄師の兄・一弥さんと主に出水郡内の畜産農家を回りますが、時には県外へ出向くこともあります。

仕事の苦労は何か尋ねると「暴れる牛をなだめるのが大変。ケガも絶えず、仕事中は油断できない」と話す一方で「蹄を切ること、牛の病気が治ったりすると農家から喜ばれる。そのときに嬉しい」と笑顔をみせました。

全国大会出場経験を持つ久志さんに負けたくないと「九州大会では、全国大会に出場できるよう入賞を目指し、いつかは兄弟と一緒に全国大会で活躍したい」と抱負を話しました。

## 走ることが生きがい

マスターズ優勝・谷尾政満さん



茅屋集落の谷尾政満さん(66)が、6月15日に鹿児島市

で開催された第30回記念鹿児島マスターズ選手権で、100歳走(65歳以上の部)にエントリーし、見事1位に輝きました。

これまでいくつもの大会で優勝してきた谷尾さん。自慢は、40歳と45歳で作った記録が未だに破られていないこと。特に45歳のときに開催された大会では、400歳走に出場し世界5位(国内では1位)の成績を残しました。

息子の政樹さんが陸上を始めたことをきっかけに、自身も走

ることに目覚めたという谷尾

さんは「走ることが生きがい。練習の後のビールも楽しみの1つ。自分の記録に挑戦し続け、走れる限り走り続けたい」と記録更新に向けステップを踏みました。



→数多くの実績を残す谷尾さん